

KYOTO

世界があこがれる観光都市へ
京都観光振興計画2020〔概要版〕



京都市



京都市長 門川 大作

「5000万人観光都市」達成後の次なるステップとして、訪れる全ての人々に感動がある「5000万人感動都市」を目指してきた京都。今回は更に歩みを進めて、「感動」の先にある「世界があこがれる観光都市」へ！そんな強い決意を込めて、この度「京都観光振興計画2020」を策定しました。

近年、歴史、伝統、食、芸術、ものづくりや精神性など、多様な面で日本の文化に対する世界の関心が高まっています。こうした中、平成32年(2020年)のオリンピック・パラリンピックの東京開催が決まり、これから我が国は一層注目を浴びるものと存じます。そしてこれは、京都に伝わる日本文化を広く発信し、京都が「観光立国・日本」を力強くけん引する絶好の機会でもあります。

今回の大きなチャンスをしっかりと捉えて、京都、ひいては我が国の発展の礎としていくためには、6年後に何をするのかではなく、この6年のうちに何をするのが極めて重要です。本計画は、スピード感を持って取組を進めていくため、従来の「未来・京都観光振興計画2010+5」の次の計画として半年前倒しで策定したものです。

オリンピック・パラリンピック招致プレゼンテーションを機に、「おもてなし」という言葉が一躍世界中に広まりました。「おもてなし」の核となるものは、周囲の人や物に対する思いやりの心です。その心を大切に多彩な文化を磨き上げ、千年を越えて我が国の都として多くのお客様をお迎えしてきた京都こそ、「おもてなし」の本場であると思います。そして、このような京都ならではの強みをいかしていくことが、多くの人々に「あこがれ」を持っていただけるまちづくりにつながっていくと確信しています。

観光政策は、あらゆる分野を横断する総合政策です。また、観光客の方々の心を惹き付け、快適にお過ごしいただけるまちは、市民の皆様にも「住んでいてよかった」と実感していただけるまちでもあります。役所内の縦割りを排し、同時に多くの市民、関係者の皆様と力を合わせて、訪れる人にも住む人にも高い満足をお届け、魅力あふれるまちの実現に全力を尽くしてまいります。

結びに、「京都市観光振興審議会」の皆様をはじめ計画策定に携わっていただきました関係者の皆様、パブリック・コメントに貴重な御意見や御提案をお寄せくださいました市民の皆様、事業者・団体の皆様に、心から御礼を申し上げます。

京都観光振興計画 2020

計画期間 2014年(平成26年)10月～2020年(平成32年)度末

目指す姿 世界があこがれる観光都市

2020年の観光都市像

- 多様な景観資産,自然景観と文化資産を守り,育て,創造的に活用を進めるまち
- 旅と暮らしの安心・安全が世界一しっかりと守られているまち
- ひとと公共交通を優先する,歩いて楽しいまち
- 市民ぐるみで観光客の皆様をあたたかくお迎えする,おもてなしのまち

京都市市民憲章

京都市市民憲章

昭和31年(1956年)5月3日制定

1. わたくしたち京都市民は,美しいまちをきずきましよう。
1. わたくしたち京都市民は,清潔な環境をつくりましよう。
1. わたくしたち京都市民は,良い風習をそだてましよう。
1. わたくしたち京都市民は,文化財の愛護につとめましよう。
1. わたくしたち京都市民は,旅行者をあたたかくむかえましよう。

1 人づくり,まちづくり~おもてなし・やすらぎ・しつらい~

- 市民の皆様が京都の魅力を再認識し、実感いただくために
 - ・ 市民の皆様が、京都の魅力を知り、体験できる機会の創出
- 京都ならではの「おもてなし」を研究し、広め、京都らしい、おもてなしの名人を育み支えるために
 - ・ 専門性の高い通訳ガイド等を育成するための京都市認定通訳ガイド制度の導入
 - ・ 外国人観光客の皆様が安心して利用していただける事業者認定制度の創設
 - ・ 「おもてなしコンシェルジュ」制度の充実など、京都ならではの「おもてなし」の向上
 - ・ 観光経営を学ぶ高等教育機関等の創設・誘致の支援
- 全ての方が京都観光をお楽しみいただけるよう「安心・安全」を徹底的に高めるために
 - ・ 「世界一安心安全・おもてなしのまち京都市民ぐるみ推進運動」や観光客等帰宅困難者対策の訓練の継続実施等による観光客の皆様への安心・安全の向上
- 外国人観光客の皆様が「買物」を通じて、楽しむことができるまちづくりを進めるために
 - ・ 免税店の更なる拡大、事業者の皆様向けのコールセンターの運営や多言語化の支援等、外国人観光客の皆様への快適な買物環境の整備等の受入体制の強化
 - ・ 伝統産業製品の制作体験が楽しめる販売店舗の情報発信
- 誰もが快適に過ごせる「やさしさ」あふれるまちづくりを進めるために
 - ・ 車いすで楽しめる観光コースの設定やマップの作成、「車いすレンタル制度」の創設
 - ・ 観光地におけるトイレの拡充及び充実やインターネット通信環境(Wi-Fi)の充実
 - ・ 観光施設等のバリアフリー化の推進

3 魅力の発信,コミュニケーション~ひびき・ひろがり~

- 東京オリンピック・パラリンピック等に合わせた京都の魅力発信を強化するために
 - ・ 日本政府観光局(JNTO)等との連携を強化した京都の魅力の発信
 - ・ 京都宣伝のためのキャッチフレーズの作成や京都の都市格向上策の推進
- 京都の魅力に対する理解の促進と京都へのあこがれをつくるための情報の受発信を強化するために
 - ・ 観光客の旅行特性や潜在ニーズの把握の徹底
 - ・ 海外拠点所在都市におけるメディアで取り上げられている京都情報の分析強化
 - ・ 京都関連コンテンツ(テレビ番組・映画等)の販売支援及びPRやロケ誘致等をはじめとする京都市メディア支援センターの情報発信機能強化
 - ・ 国別・属性別の旅行特性に応じた海外情報拠点等での情報発信の強化
 - ・ 新たな切り口での情報発信や京都の留学生の皆様などによる京都観光の魅力発信
 - ・ 京都観光オフィシャルサイト「京都観光Navi」の充実や文化芸術オフィシャルサイトの運営
- 京都の観光の意義や効果等を市民の皆様幅広くお知らせし、観光に対する理解を深めていただくために
 - ・ 市民の皆様への京都観光の意義や経済効果等に関する情報発信の充実



※「MICE」とは、M(Meeting/ミーティング企業等の会議)、I(Incentive tour/インセンティブツアー企業等の行う研修旅行や報奨旅行)、C(Convention/コンベンション国際機関・団体、学会等が行う国際会議)、E(Event・Exhibition/イベント・エキシビション展示会・見本市・スポーツイベント等)の4つの頭文字をとった造語です。

2 魅力の向上,誘致手法 ~きらめき・いざない~

- 観光客の皆様にごできるだけ長く京都に滞在していただくために
 - ・ 観光・文化に関するイベント情報を一元的に管理、販売するWebシステムの構築
- スポーツイベントなどを観光にいかすなど、観光商品の開発を進め産業振興等を推進するために
 - ・ 「2020東京オリンピック・パラリンピック」をはじめとする世界的スポーツ大会参加者・観戦者等の皆様への京都への誘客、魅力の発信。西京極総合運動公園等の受入環境の整備
- 和装,京の食文化,日本酒,京野菜等の京都が培ったあらゆる価値の蓄積をいかした新たな観光資源をつくるために
 - ・ 「京の食文化」を楽しむ観光の推進
 - ・ 伝統産業製品を取り入れた「和のある暮らし」の提案や和装の発信拠点の整備の支援
 - ・ 地域と連携した地域の観光資源の掘り起こしや既存観光地の再構築
- 海外からの教育旅行誘致等を推進し、国際交流による相互理解を促進するために
 - ・ 台湾、オーストラリア等を重点対象とした訪日教育旅行の誘致強化
- 海外からの観光客の皆様を誘致強化するために
 - ・ 知的欲求が高く、周囲への発信力や影響力が強い層である成熟した訪日旅行者層の誘致強化と人材育成の充実
 - ・ ムスリム(イスラーム教徒)等の受入体制の充実
 - ・ 伝統産業製品や文化芸術の情報発信機能を持つ海外情報拠点の設置
- 国内からの観光客の皆様を誘致強化するために
 - ・ 鉄道事業者との連携による首都圏や大都市圏等の市場分析やPRの強化
 - ・ 日帰り旅行圏に対する、新たな魅力の打ち出しと、宿泊比率向上の取組の推進
- 国内他地域との連携を強化するために
 - ・ 京都を発着とする日帰り周辺地域観光の充実

4 MICE戦略 ~つどい~

- 主催者が京都を選択しやすい環境を整えるために
 - ・ ワンストップ窓口の設置をはじめとする、MICEの誘致、開催支援メニューの充実
 - ・ 産学公との連携の下、MICE誘致の推進を図る京都市MICE協議会(仮称)の立上げ
 - ・ 大学との連携を強化したMICE開催支援
 - ・ 国立京都国際会館の拡充整備に向けた取組の推進
- 京都にふさわしいMICE誘致の強化を図るために
 - ・ 世界的な見本市・商談会等での情報発信や、MICE誘致機能を持つ海外拠点の設置検討
 - ・ ミーティング・報奨旅行を専門とした人材を活用したM・I専門官(仮称)の設置
 - ・ 多国籍企業等からの情報収集とM・I誘致の強化
- 世界の平和や人類の未来に貢献する国際会議の誘致を図るために
 - ・ 環境・科学・文化・歴史などの国際会議を重点対象とした支援メニューの充実、トップセールスを含めた誘致活動の強化
- MICEの開催を通じて都市の活力を向上させるために
 - ・ 地元コンベンション事業者の振興
 - ・ 市民向け講座やシンポジウムを開催するなど市民参加型のMICE開催等の推進

「世界があこがれる観光都市」の実現へ向けて、これらの取組をはじめ、25施策191の取組を進めていきます。

● 詳細は「京都観光推進計画2020」,「京都市MICE戦略2020」に掲載しています。

～世界があこがれる観光都市へ～

〈京都観光振興計画 2020〉

京都が観光に取り組む意義

- 京都の魅力の維持と創出
- 持続可能な文化と観光の創造
- 交流による多様性の相互理解，心豊かな暮らしの創出
- 経済波及効果による市民生活の向上

計画目標

京都を再び訪れたいという「再来訪意向」
親しい友人に京都観光を勧めたいと思う
「紹介意向」
京都滞在中に「おもてなし」を感じたかを
お聞きする「京都のおもてなし度」

- 毎年着実に評価を向上，
100%に近づける
- さらに「大変そう思う」の回答割合
→80%以上を目指す

- 外国人宿泊客数 年間300万人 (平成25年 113万人)
- 観光消費額 年間1兆円 (平成25年 7,002億円)

25施策191の取組を実施

- 観光客の皆様を魅了するやさしさあふれるまちづくりを進め，市民の皆様にとっても「京都に住んでいてよかった」と実感できるまちを実現
- 観光が産業・文化と融合し，京都の経済をけん引することにより京都のブランド価値を向上させ，安定した雇用の創出など観光による経済効果を京都市全体に還元し，市民生活の向上に寄与
- 観光立国の実現を「京都の観光」がリード

計画の推進

京都を愛する皆様一人一人と，この計画を共有し，一丸となって取組を進めてまいります。

